

〈研究成果の紹介〉

## 日持ち性の良いシクラメンの栽培法

農業研究所 園芸研究課

### 1. 成果の内容

年末に多くの消費者の皆さんが買われる代表的な鉢花がシクラメンです。比較的高価な鉢花ですので、買った後、長く楽しめることが期待されており、こうした日持ちの良いシクラメンを生産することが、生産者や産地の競争力の強化に繋がるものと期待されます。

本研究では、シクラメンの栽培段階における窒素の肥培管理条件がシクラメンの品質と日持ち性に与える影響について検討し、株毎の日持ち性を評価するための手法を併せて明らかにしました。

その結果、底面給水中の施肥窒素濃度は、開花期までは主として葉数の増加に影響を与えますが、開花期以降は株の光合成量に大きな影響を与え、施肥窒素濃度を高めるほど株の光合成量（エネルギー生産能力）を高めることができますようになります。このため、12月の出荷後の日持ち性は、出荷前1ヶ月間の施肥窒素濃度を上げ、光合成能力を高めることで増すことが明らかにし、の管理マニュアルを作成しました（図1、図2）。

また、日持ち性の指標として葉部TOC（全有機炭素量）全量を測定すれば、出荷時点での光合

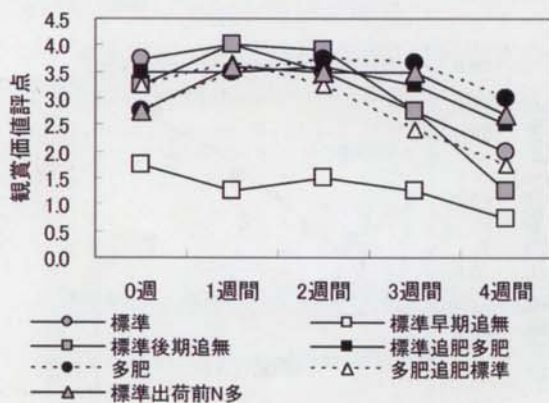


図2 室内条件での観賞価値評点（日持ち性）の劣化に与える窒素肥培管理の影響

試験条件：室温 25℃、照度 2000Lx 8時間照明  
 観賞価値評点：花数、花姿、株容積、株締まり、全体草姿の5項目を5段階採点し、加重平均した2.5以上が観賞価値有り

成能力が簡易に測定できることを明らかにし、出荷時点で良い日持ち性が期待できる株のTOC量は、株当たり1200~1300mg以上であることが判明しました（図3）。

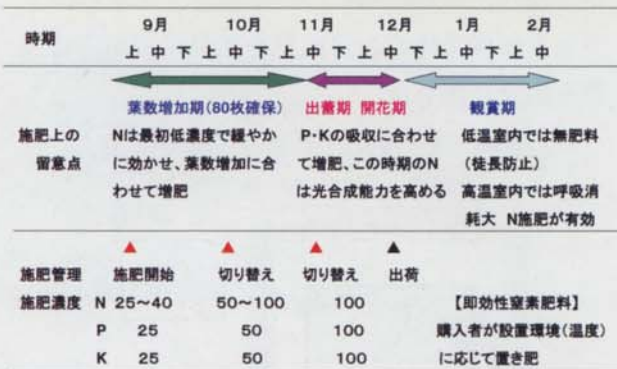
### 2. 技術の適用効果と適用範囲

本成果は日持ち性の良いシクラメンの生産技術として活用できます。また、将来的な日持ち保証のための基礎技術として活用が期待されます。

### 3. 普及・利用上の問題点

本成果は品種としてシュトラウスを用いた場合の成果であり、別の品種・栽培条件では別途検討が必要です。また、日持ち性の劣化は、高温低照度の室内に置いた場合を想定したものです。（原 正之）

図1 日持ちシクラメン栽培の管理マニュアル



(注) 底面給水条件下の濃度 (PPM)

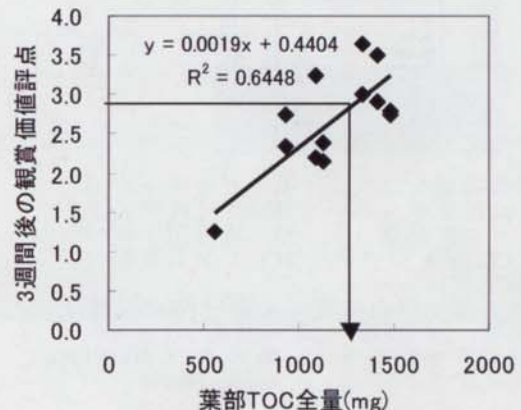


図3 葉部 TOC 全量と劣化(観賞価値評点)との関係